

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成19年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1570202232		
法人名	社会福祉法人 太陽福祉会		
事業所名	グループホームサンホーム		
所在地	新潟県長岡市榆原784番地13 (電話) 0258-52-0156		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	9月19日

【情報提供票より】 19年8月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤 13人、非常勤 4人、常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2階 建ての 1階 ~ 2階 部分		
------	----------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,300 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	900 円	

(4) 利用者の概要 (19年8月現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 17名
要介護1	4名	要介護2	7名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	名
年齢	平均 84.4歳	最低 72歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新潟県厚生農業協同組合連合会 栃尾郷病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長岡市栃尾地区特有の盆地に位置し、四方に自然を感じられるホームである。ホームの敷地や建物は広くゆったりとしており、落ち着ける環境が整備されている。また、同一敷地内に同法人の特別養護老人ホームが併設され、ホーム単独では取り組みにくい委員会活動等の協力体制が整っている。ホームは開設から3年を経過し、利用者が食事の準備や畑仕事等の役割を生活の中で実践し、落ち着いて楽しみのある生活を過ごしている様子を垣間見ることが出来た。今後はより利用者一人ひとりに注目し、地域の中でのその人らしい活動をすることを支援したいとのことであり、今後の取り組みが楽しいなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>マニュアルの作成、馴染みの食器の使用、個別の栄養摂取状況の把握、入居者の状態に応じた職員の確保、苦情への迅速な対応については改善の取り組みの結果、良好な状況となった。一方、運営理念の具体化及び運営理念の共有、定期健康診断の支援については現在改善の取り組み中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全体で取り組み、改善方法や計画も決められており、自己評価の意義を理解した取り組みがなされていた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を開催して、ホームの実状等の報告を行っているが、自己評価・外部評価の改善計画について運営推進会議の意見の反映がなされていないため、運営推進会議の機能をホームの運営に有効に活かす取り組みが今後期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>定期的に、ホーム便りを家族に送り、必要な情報については書面にて報告がなされている。また面会時や電話連絡により要望を聞き取り、アンケート調査も行い、家族の意見や要望が引き出されるための取り組みがなされていた。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域にはホームの存在が徐々に浸透してきているようだが、今後さらに地域に対する運営理念や認知症ケアについての啓発が期待される。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域密着型サービス」としての理念を職員と協議して作り上げ、運営理念として掲げ、地域の中で地域と共にあるサービス提供に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や目標が多く掲げられ、概要は会議やミーティング等により職員全体に浸透しつつあるが、職員が運営理念を理解できていない面が見受けられた。		運営理念は日々のケアの拠り所になる重要な指針である。ホームでは運営理念や目標が多く掲げられているが、柱となる運営理念と、それをもとに設定した年間目標等をそれぞれきちんと整理して理解し、理念を具現化できるようよりいっそう取り組んでいくことが求められる。
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	運営推進会議にてホームについての説明がなされているが、地域に対する運営理念の啓発の取り組みは行われていない。		地域向けの広報誌の発刊や、ホームの運営理念や具体的な役割をよりいっそう啓発・広報する取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の祭りや、さいの神等地域の行事に参加することによって、地域との交流に努めている。		今後、自治会や老人会とも交流を深めていく活動が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をサービスの質の確保・向上の機会として捉え、自己評価・改善計画の実施を職員全体で計画的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催してホームの実績等の報告を行っている。しかし、自己評価・外部評価の改善計画について運営推進会議での報告がなされていない。		自己評価・外部評価の結果についても運営推進会議にて報告し、委員からの助言・要望・質問を受けることによって、ホームにとって有用な会議とすることが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員もメンバーとして参加している。また、日頃から必要時は市に相談して助言を求めするなど、随時連携をとっている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設と協力して虐待防止マニュアルを作成し、チームケア会議にて職員全体に周知している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを家族に送ったり、リビングに写真を飾るなど、家族がホームでの生活の様子に触れることができるよう工夫している。また、健康状態については、個別に文章で伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への働きかけとして、面会時の声かけに加え、電話連絡、アンケート調査などの取り組みがなされ、家族の意見や要望を引き出すよう努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員が一同に会するチームケア会議・個別面接・ミーティング等によりできる限り職員の意見を聞き、ホームの運営に反映させる努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限とし、利用者や職員の馴染みの関係や信頼関係が築けるように配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	感染症・急変時・基礎介護など各種マニュアルを整備している。マニュアルは必要に応じて見直したり、一部差し替えたりと、適宜改正している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に職員を派遣する等の取り組みは認められるが、研修の実施は計画的なものにはなっていない。		新人職員への担当者を決め基本的な事項の習得を業務内で行ったり、小研修を計画的に定期的に行ったりと、計画的に一人ひとりの職員を育てていく取り組みが求められる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県認知症高齢者グループホーム協議会に加盟し、研修会に参加することで、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上につなげている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的及び随時の個別面接を行うことで、職員が上司に悩みを相談できる体制が整っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用開始に際しては、事前の施設見学として長時間ホームで過ごしてもらったり、入居後には家族にも宿泊してもらうなど工夫し、利用者の心理的な不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・裁縫・畑作り・書道・歌など、日常の活動における様々な場面で、職員は、利用者が自分でするように補う支援をするとともに、利用者からの学びを大切にしている。		
13 - 2	28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	敬老会・誕生会・納涼祭など家族と共に楽しむ行事を企画したり、家族に本人の思いを伝え、共同して本人の希望を実現できるよう働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の事前面接や、日常生活の中で得られた情報を記録し、利用者の思いや意向の把握に努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や利用の申込書において生活歴等が把握されているが、過去の経験や利用者の嗜好等について情報が不足している。		利用者の1日の生活スタイルや得意なこと・苦手なことなど、馴染みの暮らしや経験について積極的に情報収集することによって、ケア内容をより個人に適したものとすることが求められる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が生活の中で利用者の思いや気付いた点について記録を残し、それを集約する形で利用者自身の具体的な目標に向けた介護計画を作成している。家族にも面会時や電話等で要望を聞き、計画に反映させており、作成した介護計画については説明し同意を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低でも3ヶ月に1回のモニタリングと、状態変化が生じた際には随時介護計画の見直しがなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合が付かない時の通院介助や重度化への対応等、利用者・家族の状況や希望に応じた支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する主治医への受診を支援している。通院時に病状の把握に努め、緊急時には協力病院や併設施設とも連携して対応できる体制が確保されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、ホームとしての個別の検討は行われているが、利用者・家族との話し合いがなされていない。		重度化した際のホームの方針や対応方法については、利用者・家族にとって不安が大きいことであり、事業所としての方針や対応方法を利用者・家族とも話し合い共有することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の権利擁護に努めるために、個人情報保護・プライバシーの尊重に関する内部研修を開催し職員に周知している。職員の利用者への言葉かけや態度も利用者の誇りやプライバシーを損ねるものではない。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に添って日々の生活を支援しているが、ホームの日課が先に立ってしまうことが多く、一人ひとりのペースや希望に応じきれていない。		集団での生活ではあるが、その中でも、一人ひとりの過去の経験や得意なこと、好きなこと、暮らし方への希望を活かして、利用者一人ひとりが主体となる生活の支援が期待される。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に季節の食材や調理方法を聞きながら、メニューを共に考えている。調理、食事、後片付けも利用者と職員と一緒に進め、食事を楽しめるよう支援している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一斉にトイレ誘導をすることはなく、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別に支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日でも入浴は可能であり、14時から夕方にかけて入浴支援を行なっている。プライバシーを配慮して、利用者と職員が1対1で、同性介助を原則としており、安心してゆったりと入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花や中庭の畑での野菜作り・食事の下ごしらえ、食器洗い、テーブル拭きなどのホーム内での利用者の役割に加え、毎月の催し物など利用者一人ひとりの出番や楽しみごとが見出されるよう、場面作りの支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や毎日の食材の買物を日課としているほか、地域の行事にも積極的に参加している。散歩は、利用者の要望に応じて随時応じている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束検討委員会にホームの職員も参加し、「身体拘束ゼロ」を原則とする方針を正しく理解し、身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵がかけられておらず、センサーにより出入りが確認できるようになっている。また、併設施設にも理解を求めており、利用者が外出した際の見守り等の協力を得られる体制が整っている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時等にはすぐさま事故報告やヒヤリハット報告書を作成し、ミーティングで話し合い、対策を講じている。情報や対策を共有して、事故の再発防止への取り組みがなされている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	マニュアル等は整備され、職員の採用時に法人内で消防隊員による救急法の研修が実施されている。しかし、ホームの現状に即して実際の緊急時を想定した定期的な訓練は実施していない。		実際の緊急時に対応できる知識・技術を継続的に身につけていくためにも、実際にホームの緊急時を想定した定期的な訓練の実施を期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年間2回の防災避難訓練を実施しており、それに加えて消防署の指導の下に消火訓練も実施されている。また、地域住民の防災協力団の協力体制が確保されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の指導を受け、1日1600kcalを基本として栄養バランスに配慮した献立で食事の提供がなされている。また、一人ひとりの食事摂取量と体重を把握して、個々に応じた対応がなされていた。水分摂取についても、こまめにお茶をすすめ、確認が必要な利用者の1日の水分摂取量を把握し配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は十分なスペースが確保されており、食堂のすぐ脇にソファが置かれた談話スペースが用意されている。また、日差しや風通しも良く、利用者の作品や季節の花が飾られ、居心地の良い環境づくりがされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者がこれまで使用してきた鏡台が持ち込まれていたり、手作りの物品が飾られているなど、それぞれ落ち着いて過ごせる場所となっている。</p>		